

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-143299

(P2012-143299A)

(43) 公開日 平成24年8月2日(2012.8.2)

(51) Int.Cl.

A61F 13/496 (2006.01)

F I

A 4 1 B 13/02

U

テーマコード (参考)

3 B 2 0 0

審査請求 未請求 請求項の数 12 O L (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2011-2114 (P2011-2114)
 (22) 出願日 平成23年1月7日 (2011.1.7)

(71) 出願人 000115108
 ユニ・チャーム株式会社
 愛媛県四国中央市金生町下分182番地
 (74) 代理人 100099759
 弁理士 青木 篤
 (74) 代理人 100077517
 弁理士 石田 敬
 (74) 代理人 100087413
 弁理士 古賀 哲次
 (74) 代理人 100093665
 弁理士 蛭谷 厚志
 (74) 代理人 100153729
 弁理士 森本 有一
 (74) 代理人 100139022
 弁理士 小野田 浩之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 使い捨てオムツ

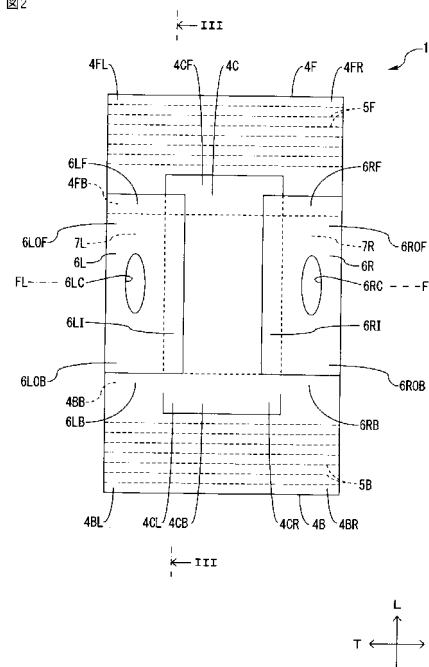
(57) 【要約】

【課題】 オムツが着用者に密着し続けるのを促進する。

【解決手段】 一つの胴回り開口及び一対の脚回り開口を備える使い捨てオムツ1は、腹側部分4Fと背側部分4Bと股部分4Cと、伸長性又は伸縮性を有する一対の脚回りシート6L、6Rとを備える。脚回りシートの縦方向周縁領域6LF、6LB、6RF、6RB及び内方側縁領域6LI、6RIは内装体の一側においてそれぞれ、腹側部分及び背側部分の下縁領域4FB、4BB及び股部分4Cの側縁領域4CL、4CRに接合される。脚回りシートはそれぞれ、切抜き6LC、6RCを有する。脚回りシートの外方側縁領域6LOF、6LOB、6ROF、6ROBが互いに接合される。

【選択図】 図2

図2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

一つの胴回り開口及び一对の脚回り開口を備える使い捨てオムツであって、

腹側部分と背側部分と股部分とを備え、腹側部分及び背側部分はオムツ展開時に縦方向に互いに離間され、股部分は横断方向中間位置を縦方向に延びて腹側部分及び背側部分に接合され、

前記オムツは更に、伸長性又は伸縮性を有する一对の脚回りシートを備え、

一方の脚回りシートの縦方向周縁領域及び内方側縁領域は股部分の一側においてそれぞれ、腹側部分の下縁領域及び背側部分の下縁領域並びに股部分の側縁領域に接合され、それにより、股部分の一側において腹側部分と背側部分との間の間隙に一方の脚回りシートが配置され、

10

他方の脚回りシートの縦方向周縁領域及び内方側縁領域は股部分の他側においてそれぞれ、腹側部分の下縁領域及び背側部分の下縁領域並びに股部分の側縁領域に接合され、それにより、股部分の他側において腹側部分と背側部分との間の間隙に他方の脚回りシートが配置され、

脚回りシートはそれぞれ、脚回り開口を画定する切り抜きを有する、
使い捨てオムツ。

【請求項 2】

一つの胴回り開口及び一对の脚回り開口を備える使い捨てオムツであって、

腹側部分と背側部分を備え、腹側部分及び背側部分はオムツ展開時に縦方向に互いに離間され、

20

前記オムツは更に、伸長性又は伸縮性を有する脚回りシートを備え、

脚回りシートの縦方向周縁領域はそれぞれ、腹側部分の下縁領域のほぼ全体及び背側部分の下縁領域のほぼ全体に接合され、それにより、腹側部分と背側部分との間の間隙に脚回りシートが配置され、

脚回りシートは、一对の脚回り開口を画定する一对の切り抜きを有する、
使い捨てオムツ。

【請求項 3】

腹側部分及び背側部分の側縁領域同士がそれぞれ、再接合不能に互いに接合される、請求項 1 又は 2 に記載の使い捨てオムツ。

30

【請求項 4】

脚回りシートの側縁領域同士がそれぞれ、再接合不能に互いに接合される、請求項 3 に記載の使い捨てオムツ。

【請求項 5】

腹側部分及び背側部分の側縁領域同士がそれぞれ再接合可能に互いに接合される、請求項 1 又は 2 に記載の使い捨てオムツ。

【請求項 6】

着用時に脚回り開口が着用者の大腿部に位置するように脚回りシートが形成されている、請求項 1 から 5 までのいずれか一項に記載の使い捨てオムツ。

【請求項 7】

脚回りシートは、互いに直交する 2 方向に伸長性又は伸縮性を有する、請求項 1 から 6 までのいずれか一項に記載の使い捨てオムツ。

40

【請求項 8】

脚回りシートの肌側面が平坦である、請求項 1 から 7 までのいずれか一項に記載の使い捨てオムツ。

【請求項 9】

脚回り開口の大きさが調節可能である、請求項 1 から 8 までのいずれか一項に記載の使い捨てオムツ。

【請求項 10】

脚回りシートが液不透過性を有する、請求項 1 から 9 までのいずれか一項に記載の使い

50

捨てオムツ。

【請求項 1 1】

脚回りシートが撥水性を有する、請求項 1 から 1 0 までのいずれか一項に記載の使い捨てオムツ。

【請求項 1 2】

腹側部分及び背側部分はそれぞれ、ほぼ横断方向に互いに平行に延びる複数の弾性部材を備える、請求項 1 から 1 1 までのいずれか一項に記載の使い捨てオムツ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0 0 0 1】

10

本発明は使い捨てオムツに関する。

【背景技術】

【0 0 0 2】

一つの胴回り開口及び一対の脚回り開口を備える使い捨てオムツであって、オムツ展開時に縦方向に互いに離間された腹側部分及び背側部分と、これら腹側部分及び背側部分に接合された弾性シートとを備え、腹側部分及び背側部分の側縁領域同士がそれぞれ、テープファスナによって接合される、使い捨てオムツが公知である（特許文献 1 参照）。このようにすると、着用者に弾性シートが接触するので、オムツが着用者の動きに容易に追従し、オムツのズレ下がりやを抑制することができる。

【先行技術文献】

20

【特許文献】

【0 0 0 3】

【特許文献 1】特開 2 0 0 1 - 8 9 6 8 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 4】

しかしながら、上述のオムツでは、テープファスナが弾性シートから離間した位置にあるので、腹側部分に隣接する弾性シート部分と背側部分に隣接する弾性シート部分とが互いに接合されていない。その結果、着用者の動きによって脚回り開口が大きく広げられ、弾性シートが着用者から離脱するおそれがある。したがって、オムツのズレ下がりやを十分に抑制できないおそれがある。また、腹側部分に隣接する弾性シート部分と背側部分に隣接する弾性シート部分とが互いに接合されていないので、当該弾性シート部分が腹側部分及び背側部分から分離するおそれもある。

30

【課題を解決するための手段】

【0 0 0 5】

本発明の第 1 観点によれば、一つの胴回り開口及び一対の脚回り開口を備える使い捨てオムツであって、腹側部分と背側部分と股部分とを備え、腹側部分及び背側部分はオムツ展開時に縦方向に互いに離間され、股部分は横断方向中間位置を縦方向に延びて腹側部分及び背側部分に接合され、前記オムツは更に、伸長性又は伸縮性を有する一対の脚回りシートを備え、一方の脚回りシートの縦方向周縁領域及び内方側縁領域は股部分の一側においてそれぞれ、腹側部分の下縁領域及び背側部分の下縁領域並びに股部分の側縁領域に接合され、それにより、股部分の一側において腹側部分と背側部分との間の間隙に一方の脚回りシートが配置され、他方の脚回りシートの縦方向周縁領域及び内方側縁領域は股部分の他側においてそれぞれ、腹側部分の下縁領域及び背側部分の下縁領域並びに股部分の側縁領域に接合され、それにより、股部分の他側において腹側部分と背側部分との間の間隙に他方の脚回りシートが配置され、脚回りシートはそれぞれ、脚回り開口を画定する切り抜きを有する、使い捨てオムツが提供される。

40

【0 0 0 6】

本発明の第 2 観点によれば、一つの胴回り開口及び一対の脚回り開口を備える使い捨てオムツであって、腹側部分と背側部分を備え、腹側部分及び背側部分はオムツ展開時に縦

50

方向に互いに離間され、前記オムツは更に、伸長性又は伸縮性を有する脚回りシートを備え、脚回りシートの縦方向周縁領域はそれぞれ、腹側部分の下縁領域のほぼ全体及び背側部分の下縁領域のほぼ全体に接合され、それにより、腹側部分と背側部分との間の間隙に脚回りシートが配置され、脚回りシートは、一対の脚回り開口を画定する一対の切り抜きを有する、使い捨てオムツが提供される。

【発明の効果】

【0007】

オムツが着用者に密着し続けるのを促進することができる。

【図面の簡単な説明】

【0008】

10

【図1】本発明による第1実施例の使い捨てオムツの平面図である。

【図2】図1のオムツの展開図である。

【図3】図2の線ⅠⅠⅠ-ⅠⅠⅠに沿ってみた断面図である。

【図4】切抜きの別の実施例を示す図である。

【図5】接合の別の実施例を示す図である。

【図6】脚回りシートの別の実施例を示す図である。

【図7】脚回りシート及び股部分の別の実施例を示す図である。

【図8】切抜きの寸法を説明する図である。

【図9】本発明による第2実施例の使い捨てオムツの平面図である。

【図10】図9のオムツの展開図である。

20

【図11】図10の線ⅩⅩ-ⅩⅩに沿ってみた断面図である。

【図12】使い捨てオムツの更に別の実施例を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0009】

図1、図2及び図3は本発明による第1実施例を示している。なお、図2において、Lはオムツ1の縦方向を、Tは縦方向に直交する横断方向を、それぞれ示している。

【0010】

図1、図2及び図3を参照すると、使い捨てオムツ1は腹側部分4F、背側部分4B及び股部分4Cを備える。腹側部分4F及び背側部分4Bはそれぞれ着用時に着用者の腹側及び背側に位置する。

30

【0011】

腹側部分4F及び背側部分4Bはそれぞれ長形状をなしており、展開時に縦方向Lに互いに離間して配置される。また、腹側部分4F及び背側部分4Bにはそれぞれ、横断方向Tに互いにほぼ平行に延びる複数の弾性部材5F、5Bが設けられる。特に図3に示されるように、腹側部分4F及び背側部分4Bはそれぞれ互いに重ねられた2枚の液不透過性シートを備え、弾性部材5F、5Bはこれらシート間に伸長状態で配置されてこれらシートに固定される。

【0012】

股部分4Cも長形状をなし、縦方向Lに延びて横断方向中間位置において腹側部分4F及び背側部分4Bに接合される。この場合、股部分4Cの縦方向周縁領域4CF、4CBがそれぞれ腹側部分4F及び背側部分4Bの下縁領域4FB、4BBに接合される。その結果、股部分4Cは着用時に着用者の股部に位置する。

40

【0013】

この股部分4Cは、例えば、液不透過性のバックシートと、バックシートに保持された吸収体とを備える。吸収体は例えば繊維集合体及び高吸収ポリマー粒子を備える。

【0014】

オムツ1は更に、概ね四角形状の一対の脚回りシート6L、6Rを備え、すなわち図1及び図2において股部分4Cの左側に位置する左方脚回りシート6Lと、股部分4Cの右側に位置する右方脚回りシート6Rとを備える。脚回りシート6L、6Rは伸長性又は伸縮性を有し、好ましくは伸縮性を有する。

50

【 0 0 1 5 】

脚回りシート 6 L , 6 R の伸度は好ましくは 1 4 0 % 以上であり、さらに好ましくは 1 8 0 % 以上である。ここで、シート材の伸度は次のようにして求められる。すなわち、自然状態にあるシート材に 5 0 m m の線分を描き、次いでシート材を引っ張って伸長させ、完全に伸長したときの線分の長さ B (m m) を測定する。次いで、次式を用いて伸度が算出される。

【 0 0 1 6 】

$$\text{伸度} = B / 5 0 \times 1 0 0 (\%)$$

【 0 0 1 7 】

更に、脚回りシート 6 L , 6 R は液不透過性、撥水性、及び通気性のうち少なくとも一つを有する。

10

【 0 0 1 8 】

脚回りシートは伸長性シート又は伸縮性シートから構成できる。伸長性シートとして、例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン等の熱可塑性樹脂フィルムを用いることができる。あるいは、熱可塑性樹脂フィルムに、部分的に切断され又は脆弱化された非伸長性不織布を貼り合わせた複合シートから構成することもできる。一方、伸縮性シートとして、例えば、ウレタン、スチレンのような熱可塑性エラストマ樹脂を溶融した伸縮繊維からなる不織布、伸縮繊維からなる不織布に、部分的に切断され又は脆弱化された非伸長性不織布を貼り合わせた複合シートから構成することもできる。

20

【 0 0 1 9 】

左方脚回りシート 6 L の縦方向周縁領域 6 L F , 6 L B は股部分 4 C の左方においてそれぞれ、腹側部分 4 F の下縁領域 4 F B 及び背側部分 4 B の下縁領域 4 B B に接合される。また、左方脚回りシート 6 L の内方側縁領域 6 L I は、股部分 4 C の左方側縁領域 3 L に接合される。その結果、股部分 4 C の左方において腹側部分 4 F と背側部分 4 B との間の隙 7 L に左方脚回りシート 6 L が配置される。

【 0 0 2 0 】

同様に、右方脚回りシート 6 R の縦方向周縁領域 6 R F , 6 R B は股部分 4 C の右方においてそれぞれ、腹側部分 4 F の下縁領域 4 F B 及び背側部分 4 B の下縁領域 4 B B に接合される。また、右方脚回りシート 6 R の内方側縁領域 6 R I は、股部分 4 C の右方側縁領域 4 C R に接合される。その結果、股部分 4 C の右方において腹側部分 4 F と背側部分 4 B との間の隙 7 R に右方脚回りシート 6 R が配置される。

30

【 0 0 2 1 】

ここで、腹側部分 4 F , 背側部分 4 B , 股部分 4 C , 左方脚回りシート 6 L 及び右方脚回りシート 6 R は例えばホットメルト接着剤 A (図 3) でもって、互いに接合される。

【 0 0 2 2 】

特に図 2 に示されるように、左方脚回りシート 6 L は切抜き 6 L C を有し、右方脚回りシート 6 R は切抜き 6 R C を有する。本発明による第 1 実施例では、切抜き 6 L C , 6 R C はそれぞれ、縦方向に延びる長軸を有する楕円状をなしている。なお、切抜き 6 L C , 6 R C を画定する周縁は脚回りシート 6 L , 6 R の外周縁から離間しており、したがって脚回りシート 6 L , 6 R はリング状をなしている。

40

【 0 0 2 3 】

股部分 4 C 及び脚回りシート 6 L , 6 R が横断方向 T にほぼ平行な折り畳み線 F L に沿って折り畳まれることにより、左方脚回りシート 6 L の外方側縁領域 6 L O F , 6 L O B が互いに重ねられ、右方脚回りシート 6 R の外方側縁領域 6 R O F , 6 R O B が互いに重ねられる。また、腹側部分 4 F の左方側縁領域 4 F L と背側部分 4 B の左方側縁領域 4 B L とが互いに重ねられ、腹側部分 4 F の右方側縁領域 4 F R と背側部分 4 B の右方側縁領域 4 B R とが互いに重ねられる。

【 0 0 2 4 】

その上で、左方脚回りシート 6 L の外方側縁領域 6 L O F , 6 L O B が互いに接合され、右方脚回りシート 6 R の外方側縁領域 6 R O F , 6 R O B が互いに接合される。また、

50

左方側縁領域 4 F L と左方側縁領域 4 B L とが互いに接合され、右方側縁領域 4 F R と右方側縁領域 4 B R とが互いに接合される。

【 0 0 2 5 】

その結果、図 1 に示されるように、左方脚回りシート 6 L によって左方脚回り開口 1 L L が画定され、右方脚回りシート 6 R によって右方脚回り開口 1 L R が画定される。また、腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B によって一つの胴回り開口 1 W が画定される。

【 0 0 2 6 】

ここで、左方脚回りシート 6 L の外方側縁領域 6 L O F , 6 L O B 、右方脚回りシート 6 R の外方側縁領域 6 R O F , 6 R O B 、腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B の左方側縁領域 4 F L , 4 B L 及び右方側縁領域 4 F R , 4 B R はそれぞれ、例えばソニックシールによ

10

【 0 0 2 7 】

本発明による第 1 実施例では、脚回り開口 1 L L , 1 L R の周長又は内径が着用者の脚の周長又は内径よりも小さくなるように、切抜き 6 L C , 6 R C が形成されている。

【 0 0 2 8 】

着用時には、脚回り開口 1 L L , 1 L R に着用者の脚がそれぞれ通され、オムツ 1 が引き上げられる。この場合、脚回りシート 6 L , 6 R は着用者の脚の形状に応じて伸長する。したがって、脚回りシート 6 L , 6 R が着用者に密着する。

【 0 0 2 9 】

しかも、左方脚回りシート 6 L 及び右方脚回りシート 6 R がリング状をなしているので、脚回りシート 6 L , 6 R が着用者の脚の全周にわたって密着し続けることができる。その結果、一对の脚回り開口 1 L L , 1 L R からのモレを確実に抑制することができる。また、脚回りシート 6 L , 6 R が腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B から分離するのを抑制することもできる。

20

【 0 0 3 0 】

脚回りシート 6 L , 6 R は互いに直交する 2 方向に伸長性又は伸縮性を有するのが好ましく、例えば縦方向 L 及び横断方向 T に伸長性又は伸縮性を有するのが好ましい。脚回りシート 6 L , 6 R は一方向にのみ伸長性又は伸縮性を有してもよく、切抜き 6 L C , 6 R C が縦方向に延びる楕円状の場合には、脚回りシート 6 L , 6 R は縦方向 L に伸長性又は伸縮性を有するのが好ましい。

30

【 0 0 3 1 】

更に、本発明による第 1 実施例では、脚回りシート 6 L , 6 R の肌側面は平坦である。すなわち、脚回りシート 6 L , 6 R の肌側面にはシワが設けられていない。その結果、脚回りシート 6 L , 6 R が線接触ではなく面接触の形で着用者に接するので、その結果、着用者に対する脚回りシート 6 L , 6 R の密着性が高められる。

【 0 0 3 2 】

図 4 (A) , 図 4 (B) , 図 4 (C) は、切抜き 6 L C , 6 R C の別の実施例を示している。切抜き 6 L C , 6 R C はそれぞれ、図 4 (A) に示される例では円状をなし、図 4 (B) に示される例では横断方向に延びる長軸を有する楕円状をなしている。また、図 4 (C) に示される例では切抜き 6 L C , 6 R C はそれぞれ、スリットから構成される。

40

【 0 0 3 3 】

なお、図 4 (B) に示される例では脚回りシート 6 L , 6 R が少なくとも横断方向 T に伸長性又は伸縮性を有するのが好ましく、図 4 (C) に示される例では脚回りシート 6 L , 6 R が少なくとも縦方向 L に伸長性又は伸縮性を有するのが好ましい。

【 0 0 3 4 】

切欠き 6 L C , 6 R C が図 2 に示されるように縦方向に長い場合には、脚回り開口 1 L L , 1 L R は着用者の鼠径部に位置することができる。この場合、着用者の外観を簡素化することができる。

【 0 0 3 5 】

50

一方、切欠き 6 L C , 6 R C が図 4 (B) に示されるように横断方向に長い場合には、脚回り開口 1 L L , 1 L R は着用者の大腿部に位置することができる。この場合、着用者の動きのある部位が締め付けられるのを抑制しつつ、オムツ 1 により着用者の体を広範囲で覆うことができる。

【 0 0 3 6 】

いずれにしても、脚回り開口 1 L L , 1 L R が着用者の脚よりも小さく形成されているので、着用時に脚回りシート 6 L , 6 R が着用者の脚に確実に密着することができる。

【 0 0 3 7 】

上述した本発明による第 1 実施例では、腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B の左方側縁領域 4 F L , 4 B L 同士が再接合不能に互いに接合され、右方側縁領域 4 F R , 4 B R 同士が再接合不能に互いに接合される。また、左方脚回りシート 6 L の外方側縁領域 6 L O F , 6 L O B 及び右方脚回りシート 6 R の外方側縁領域 6 R O F , 6 R O B がそれぞれ、再接合不能に接合される。しかしながら、これら腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B を、例えば接合具を用いて、再接合可能に接合することもできる。

【 0 0 3 8 】

すなわち、図 5 に示される例では、一对の雄部材 8 M 及び一つの雌部材 8 F を含む面ファスナのような接合具が設けられる。雄部材 8 M は背側部分 4 B に設けられ、雌部材 8 F は腹側部分 4 F の外面に設けられる。この場合、左方脚回りシート 6 L の外方側縁領域 6 L O F , 6 L O B 及び右方脚回りシート 6 R の外方側縁領域 6 R O F , 6 R O B はそれぞれ、互いに接合されていない。

【 0 0 3 9 】

図 6 (A) 及び図 6 (B) は脚回りシート 6 L , 6 R の別の実施例を示している。なお、図 6 (A) 及び図 6 (B) には脚回りシート 6 L のみが示されるが、脚回りシート 6 R も同様に構成することができる。

【 0 0 4 0 】

図 6 (A) に示される例では、切抜き 6 L C から外方側縁 6 L O E まで延びる 1 本の脆弱線 9 が脚回りシート 6 L に設けられる。その結果、脆弱線 9 に沿って脚回りシート 6 L を破ることにより、切抜き 6 L C により画定される脚回り開口 1 L L の大きさを調節することができる。なお、脆弱線 9 は外方側縁 6 L O E まで延びていなくてもよい。

【 0 0 4 1 】

図 6 (B) に示される例では、切抜き 6 L C から外方側縁 6 L O E まで延びる複数、例えば 2 本の脆弱線 9 が脚回りシート 6 L に設けられる。その結果、脆弱線 9 に沿って脚回りシート 6 L を破り、脆弱線 9 に挟まれたシート部分 6 X を除去することにより、脚回り開口 1 L L の大きさを調節することができる。

【 0 0 4 2 】

図 7 (A) は脚回りシート 6 L , 6 R の別の実施例を、図 7 (B) 及び図 7 (C) は股部分 4 C の別の実施例を示している。これまで述べてきた各実施例では、脚回りシート 6 L , 6 R は腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B の内面、すなわち着用者側に接合されている。これに対し、図 7 (A) に示される例では、脚回りシート 6 L , 6 R は腹側部分 4 F の外面 4 F O 及び背側部分 4 B の外面 4 B O に接合される。

【 0 0 4 3 】

図 7 (B) に示される例では、吸収体 A D は股部分 4 C とは別個に設けられる。すなわち、股部分 4 C はバックシートを備えるが、吸収体を備えていない。その上で、股部分 4 C は腹側部分 4 F の外面 4 F O 及び背側部分 4 B の外面 4 B O に接合される。

【 0 0 4 4 】

一方、図 7 (C) に示される例では、バックシート及び吸収体を備える股部分 4 C が、腹側部分 4 F の外面 4 F O 及び背側部分 4 B の外面 4 B O に接合される。また、脚回りシート 6 L , 6 R は、腹側部分 4 F を構成する 2 枚のシート同士の間、及び背側部分 4 B を構成する 2 枚のシート同士の上に、それぞれ接合される。

【 0 0 4 5 】

10

20

30

40

50

次に、切抜き 6 L C , 6 R C の寸法について、図 8 を参照して説明する。本発明による第 1 実施例では、切抜き 6 L C , 6 R C の縦方向長さ L N C がオムツ 1 の縦方向長さ L N 1 の $1/3$ 以下であり ($L N C < (1/3) L N 1$)、かつ切抜き 6 L C , 6 R C の横断方向長さ W D C がオムツ 1 の横断方向長さ W D 1 の $1/3$ 以下である ($W D C < (1/3) W D 1$) ように、切抜き 6 L C , 6 R C が形成される。

【 0 0 4 6 】

このようにすると、オムツ 1 によって着用者の体を十分に覆いながら、脚回り開口 1 L L , 1 L R の大きさを小さくすることができる。したがって、脚回りシート 6 L , 6 R を着用者の脚に確実に密着させることができる。

【 0 0 4 7 】

このことは実験によっても確認されている。すなわち、子供用オムツ及び大人用オムツのように縦方向長さ L N 1 及び横断方向長さ W D 1 が互いに異なる複数のオムツについて、 $L N C < (1/3) L N 1$ かつ $W D C < (1/3) W D 1$ であるオムツと、 $L N C > (1/3) L N 1$ 又は $W D C > (1/3) W D 1$ であるオムツとを用意した。これらオムツについてモレの発生頻度を確認したところ、 $L N C < (1/3) L N 1$ かつ $W D C < (1/3) W D 1$ であるオムツでは低いモレ発生頻度が得られた。これに対し、 $L N C > (1/3) L N 1$ 又は $W D C > (1/3) W D 1$ であるオムツでは高いモレ発生頻度が得られた。

【 0 0 4 8 】

ところで、従来、オムツ半完成品の連続体が用意され、互いに隣接する 2 つのオムツ半完成品同士の間切欠き又は切抜きが形成され、切欠き又は切抜きが二分され、互いに隣接する 2 つのオムツ半完成品の脚回り開口が切欠き又は切抜きの部分によって画定される、使い捨てオムツの製造方法が知られている。しかしながら、この製造方法では、互いに隣接する 2 つのオムツ半完成品のうち一方の脚回り開口が大きくなると他方の脚回り開口が小さくなり、すなわち脚回り開口の大きさに大きなバラツキが生じうる。

【 0 0 4 9 】

これに対し、本発明による各実施例では、切抜き 6 L C , 6 R C が脚回りシート 6 L , 6 R にそれぞれ独立して形成される。したがって、脚回り開口 1 L L , 1 L R の大きさを均一化することができる。

【 0 0 5 0 】

図 9、図 10 及び図 11 は本発明による第 2 実施例を示している。図 9、図 10 及び図 11 を参照すると、第 2 実施例では単一の脚回りシート 6 が設けられる。この脚回りシート 6 は、腹側部分 4 F 及び背側部分 4 B とほぼ同じ横断方向長さを有する。

【 0 0 5 1 】

脚回りシート 6 の縦方向周縁領域 6 F , 6 B はそれぞれ、腹側部分 4 F の下縁領域 4 F B のほぼ全体及び背側部分 4 B の下縁領域 4 B B のほぼ全体に接合される。その結果、腹側部分 4 F と背側部分 4 B との間隙 7 に脚回りシート 6 が配置される。

【 0 0 5 2 】

特に図 10 に示されるように、脚回りシート 6 は一対の切抜き 6 C を有する。本発明による第 2 実施例でも、切抜き 6 C はそれぞれ、縦方向に延びる長軸を有する楕円状をなしている。

【 0 0 5 3 】

また、本発明による第 2 実施例でも、左方脚回りシート 6 L の外方側縁領域 6 L O F , 6 L O B が互いに接合され、右方脚回りシート 6 R の外方側縁領域 6 R O F , 6 R O B が互いに接合される。また、左方側縁領域 4 F L と左方側縁領域 4 B L とが互いに接合され、右方側縁領域 4 F R と右方側縁領域 4 B R とが互いに接合される。

【 0 0 5 4 】

その結果、図 9 に示されるように、脚回りシート 6 によって一対の脚回り開口 1 L L , 1 L R が画定される。

【 0 0 5 5 】

10

20

30

40

50

本発明による第２実施例では、股部分４Ｃは腹側部分４Ｆ及び背側部分４Ｂ両方に接合される。しかしながら、股部分４Ｃは腹側部分４Ｆ及び背側部分４Ｂの一方に接合されてもよく、又は両方に接合されなくてもよい。

【００５６】

本発明による第２実施例のその他の構成及び作用は第１実施例の構成及び作用と同様である。

【００５７】

これまで述べてきた各実施例では、腹側部分４Ｆ、背側部分４Ｂ及び股部分４Ｃは互いに別個の部材から構成される。しかしながら、図１２に示されるように、腹側部分４Ｆ及び背側部分４Ｂと、バックシートから構成される股部分４Ｃとを共通のシート材から構成し、このシート材上に吸収体ＡＤを配置してもよい。なお、図１２では脚回りシート６Ｌ、６Ｒは省略してある。

10

【００５８】

また、股部分４Ｃ又は吸収体の横断方向両側に防漏部材をそれぞれ設けてもよい。各防漏部材は例えば、吸収体の横断方向側縁から横断方向外向きに広がるシートを備え、これらシートの外端には、縦方向に延びる弾性部材が設けられる。その結果、モレを確実に抑制することができる。

【００５９】

更に、これまで述べてきた各実施例を互いに組み合わせることもできる。すなわち、例えば、本発明による第２実施例において、図７（Ａ）のように脚回りシートを腹側部分４Ｆ及び背側部分４Ｂの外面に接合することもできる。

20

【符号の説明】

【００６０】

１ 使い捨てオムツ

１ＬＬ，１ＬＲ 脚回り開口

４Ｆ 腹側部分

４Ｂ 背側部分

４Ｃ 股部分

６Ｌ，６Ｒ 脚回りシート

６ＬＣ，６ＲＣ 切抜き

６ＬＯＦ，６ＬＯＢ，６ＲＯＦ，６ＲＯＢ 外方側縁領域

30

フロントページの続き

(72)発明者 瀧野 俊介

香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内

Fターム(参考) 3B200 AA01 BA05 BA11 BA12 BB11 CA03 CA09 DA01 DE01